梨花

題字／西尾邑次
名誉会員揮毫

第24号
2006年6月10日発行
東京鳥取県人会事務局
〒102-0093
東京都千代田区平河町2-6-3
都道府県会館10F
電話　03(5212)9178
FAX　03(5212)9079
発行責任者／中野　純
編集／県人会広報部会
http://www.pref.tottori.jp/tokyooffice

▼田村新所長を中央に左から吉井、前田、田原、山本の皆さん

『県発展のため力合わせよう』
新しい県事務所県人会担当チームが決意表明

鳥取県東京事務所に見るからに頼もしい、新たな県人会担当チーム（写真）がお目見えした。春の定期異動（4月1日付）に伴い、所長、副所長ら主要メンバーが大幅入れ替えとなったためで、県人会広報部会ではさっそく新チームの面々に抱負、決意のほどを語ってもらった。

新所長は県民室長から中央へ

「ずっと以前に自治大学校の研修で半年ほど滞在したことがあるくらいで、東京はほとんど初体験なので、何かと戸惑うことばかりです」と、まずは低姿勢に切り出したのは新所長の田村明敏さん（写真中央）。県民室長からの異動で、「さまざまな方面で活躍される県人会の皆様の知識、経験を出来るだけご教示いただき、県人会、ひいては県活性化のためのヒントにさせていただきたい」という。

新所長とは逆に東京生活16年の経験がある前田修副所長（同左から二人目）は、一回目の東京事務所勤務の時も県人会を担当していたといい、「違和感はありません」と余裕の表情。今回は県経済交流課長からの異動で、そのロからは「会員増強に微力を尽くしたい」と総務部会長が聞いたら涙を流して喜びそうな決意表明が飛び出した。

次いで県西部県民局からの異動という若手の山本圭介副主幹（同右端）は「東京は全くの初めて」というが、「思ったより暮らしやすい」とも言い、「多くの人に会っていろんな話が聞きたい。出来れば一生心に残るような言葉の数々をお聞かせいただければ・・」との奇抜発言の中にも強い期待感をにじませる。

また今回、県事務所行政担当から内部異動してきた田原万友美さん（同右から二人目）も、「県人会の方々のお役に立てるよう頑張りたい」と意気込みを語ってくれた。

欠かせぬ吉井ライン

ただ一人、担当を引き継がれる吉井美和子さん（同左端）は、皆さんご承知の通り今や県人会事務局にとって欠かせない中核的存在。強力な助っ人を得て、「新たな気持ちでがんばりたい」と一段と心強い決意表明をしてくれた。

その吉井さんからは新着の県統計課作成推計人口（4月1日現在）を基にした厳しい人口減に対する警鐘発言も行われた。つまり、この統計によると、鳥取の人口はいまや六十万三千九百三十六人と六十万を切りそうな所まで落ち込んでおり、吉井さんは「このまま放置できない。県人会の皆さんには豊富な知識、経験を持って少しでも故郷へ帰っていただきたいし、〈鳥取いいとこ〉を東京人に大いに宣伝していただきたい」とまで訴えた。

県の発展に寄与したい

ここまで言われて広報部会としても黙っていられない。「われわれも頑張りますよ」と立ち上がったのは鳥飼公雄部会長。「新チームの決意の程はよく分かりました。ちょうどわれわれ県人会としても従来のような仲良しクラブだけでいいのか。県の発展に少しは寄与しようではないか、というわけで、会則を変え、別項のように三つの部会を作ったばかりのタイミングです。どうか皆さんには良きパイプ役になっていただき、生まれ変った県人会の新たな目標達成のために力をお貸しいただきたい」と締めくくった。

なお、旧チームの岡崎功所長は県議会事務局次長へ、中山孝一副所長は産業開発課長へ、橋本大助さんは倉吉市障害福祉課へそれぞれ4月1日付で異動された。（文／本池滋夫、写真／遠藤隆司）

会則改正で三部会が発足しました

昨年の総会で承認された会則改正に伴い、今年1月から新たに、副会長、常任幹事、幹事の皆さんで構成される「総務部会」、「広報部会」、「交流部会」の三部会が設置されました。

各部会の部会長、副部会長及び主な役割は以下のとおりです。

総務部会（部会長＝西村和義副会長、副部会長＝林田達郎幹事）
・新規会員の加入促進・県人会の運営に関すること・総会と懇親の夕べの企画運営

広報部会（部会長＝鳥飼公雄副会長、副部会長＝本池滋夫常任幹事）
・会報梨花、会員名簿の発行
・ホームページの管理運営・県人会・県のPR

交流部会（部会長＝上村正明副会長、副部会長＝八村義郎常任幹事）
・ふるさと鳥取県の応援

随想リレー

ふるさとを友人と旅して思うこと

東京鳥取県人会幹事
クリタ水・環境科学技術振興財団理事長　竹歳　一夫

昨年、東京・大阪の友人の「鳥取で2泊3日のゴルフをしたい」に応え、米子空港に集合、高校の友人M君の案内で足立美術館を鑑賞、米子の料理屋で食事。その店の器が今観てきたばかりの北大路魯山人のものと判り、一同びっくりするやら大変感動。当方は粗相をしなければいいがと気が散り美味しい料理もすんなりと喉を通らぬ始末。M君がアッシー役をしてくれて、翌2日間ゴルフを楽しみ、帰路案内された広大な境港の海産物店であれこれ土産を買い、M君には感謝をしながらお別れしました。

その後友人たちは「本当に良かった、また来年と言わず、毎年来たいので〈伯耆・因幡国〉を案内してくれ」と言うので、「何がそんなに良かった？」と聞きますと、「秀峰大山に抱かれた豊かな自然、海岸線の美しさのハード面もさることながら、ホテルのフロント、ゴルフ場のキャディーさん、料理屋の女将・板前さんなどの応接、言ってみれば、ソフト面の実直・素直さが抜群だった」とのこと。当方も嬉しくなり、「さて来年は大山寺、とっとり花回廊、米子城址、再来年は三朝、三徳山、倉吉の白壁土蔵群、その次は鳥取砂丘、池田家墓所、それぞれ連荘のゴルフ付き」と楽しい計画を頭に描いたことでした。

しかし、一方で〝ふるさとに入りて先ず心痛むかな道広くなり　橋もあたらし〟（石川啄木）の感も否めません。どうか郷土の自然、懐かしい匂い、味、先祖が蓄積した生活の証を守っていただき、「文化」が「文明」に駆逐されることのない様願うものです。私も今後、自信と誇りを持って友人をガイドできるよう、「温故」（古きを尋ね）を蔑ろにすることなく、「知新」（新しきを知る）に努めたいと思うこの頃です。

■あの街　この町■〈21〉

自然と歴史が調和した心豊かなふるさと
琴浦町（ことうらちょう）

鳥取県のほぼ中央に位置する琴浦町は、平成16年9月1日に旧東伯町と旧赤碕町が合併して誕生した人口2万人余りの町です。

町名は両町にまたがる海岸一帯が「琴ノ浦」と呼ばれていたことから命名されました。

「太平記」の舞台、船上山

町の南部は、大山隠岐国立公園内の山岳地帯です。

室町時代の南北朝の動乱を描いた「太平記」の舞台となった船上山は、名和長年が後醍醐天皇を奉じて北条氏の兵を破った古戦場。一三三三（元弘3）年、天皇は隠岐島を脱出して伯耆に上陸され、以後、京都に帰還されるまでの80日余りを過ごされたゆかりの地です。山頂にある寺坊跡は、国の史跡に指定されています。

小泉八雲ゆかりの海水浴場

日本海に広がる美しい砂浜で知られる八橋（やばせ）海水浴場は、夏には多くの海水浴客でにぎわいます。

一八九一（明治24）年8月、「耳なし芳一」などの怪談の作者で知られる小泉八雲・セツ夫婦がここを訪れました。八雲は友人で東京帝国大学教授（当時）のバジル・ホール・チェンバレンにあてた手紙に「八橋ではとても愉快でした。眠り、食べ、泳ぎ、まったく愉快です」と書いています。

現在はゆかりの地として、海水浴場の一角に「小泉八雲・セツ記念碑」が建立されています。

「琴浦会」会員募集中

県外在住の琴浦町出身者で組織する「琴浦会」では今年2月、初の東日本地区交流会を都内で開催し、首都圏在住の会員を中心に70人が出席しました。

琴浦会では、こうした交流会のほか、イベント案内や町特産品のあっせんなど、さまざまな活動を行っています。

琴浦町出身のみなさん、友人や知人のかたとお誘いあわせの上、ぜひご入会ください。（琴浦町企画情報課）

◀写真は「琴浦町観光パンフレット」に掲載された船上山風景

おめでとうございます

○中野啓二郎氏（日本ボーリング場協会顧問）ボーリング場産業に長年携わり、業界の発展に多大な貢献。昨年秋、藍綬褒章を受章。

○鈴木誠氏（元日本弁護士連合会副会長）永年の弁護士活動を通じ、国家社会に貢献。この春、旭日中綬章を受章。

○岸本正壽氏（オリンピス株会長）去る5月17日ドイツ政府より「大功労十字章」受章。ヨーロッパ在勤中、両国の若手研究者育成等に功績。

事務局人事異動

【新】田村明敏所長（県民室長より）、前田修副所長（経済交流課長より）、伊藤賢主幹（林政課より）、山本圭介副主幹（西部総合事務所県民局より）

【旧】岡崎功所長県議会事務局次長へ、中山孝一副所長産業開発課長へ、地原聡子市場開拓監市場開拓室へ、橋本大助倉吉市障害福祉課へ、竹安徳行東部総合事務所県土整備局へ、横山敏明管財課へ

慎んでお悔やみ申し上げます

県人会の発展に多大なご貢献をいただいたお二人の元会長のご逝去の報がありました。ご冥福をお祈りします。

●佐々木定道氏　岩美町出身、平成元年9月～平成5年9月東京鳥取県人会会長、富士重工株式会社元社長、3月26日ご逝去。

●松田新市氏　湯梨浜町出身、平成5年9月～平成9年9月東京鳥取県人会長、三菱電機株式会社元副社長、4月20日ご逝去。

四季と酒の蔵　稲田屋 INATAYA
http://www.inataya.co.jp
●日本橋店／☎03-3510-1718　●秋葉原店／☎03-5297-1708
●新宿西口店／☎03-3349-1708　●石神井公園店／☎03-5923-1708
●飯田橋店／☎03-3234-1708　●米子店／☎0859-22-0070
●品川店／☎03-6718-1718　●本部／☎03-3517-1900

●山陰を再発見
厳選された「旨い味」「匠の人」「手作り工芸」を季刊で紹介「こだわり情報誌」誕生
キさんいんラリ　夏号
発行元　㈲グリーンフィールズ
購読に関するお問い合わせは、下記取扱い書店へ。
東京新宿紀伊国屋書店　TEL 03-3354-0131

千代むすび酒造㈱
●大山の伏流水で旨い酒
慶応元年創業
全国新酒鑑評会金賞蔵
代表取締役　岡空晴夫
〒684-0004
鳥取県境港市大正町131
TEL0859-42-3191
FAX0859-42-3515

㈱愛国電線工業所
代表取締役社長　三浦三郎
（鳥取市出身）
〒108-0074　東京都港区高輪2-21-41
TEL(03)3442-2221

地域の夢、お客様の夢をかなえる
創造的なベストバンク
株式会社山陰合同銀行東京支店
東京都中央区日本橋兜町15-6　〒103-0026
TEL.03-3669-0211　FAX.03-3639-5250
URL.http://www.gogin.co.jp

県内情報

頑張れ！SC鳥取

Jリーグ昇格へ向け意気込み
関東地区サポーターも参集

3月19日にSC鳥取の関東支援者集会がリステル新宿で開催されました。集会には、東京鳥取県人会の中野純会長、上村正明副会長をはじめ、約30名の関東地区のSC鳥取のサポーターが参加し、選手たちを激励しました。

会場では、選手たち一人ひとりがJリーグ昇格へ向けた意気込みを発表するなど選手と支援者が楽しく活気に満ちた時間を過ごしました。

3月21日には、平成18年度のSC鳥取の開幕戦になる横河武蔵野FC戦が調布市の味の素スタジアムで行われました。会場には、多くのサポーター（応援団）が駆けつけ鳥取弁を交えながら熱い応援を繰り広げ、SC鳥取の選手たちも応援を受けて、積極的な攻撃を展開するなど善戦しましたが、残念ながら、0対2で敗れてしまいました。

東京鳥取県人会は、今年から法人サポーターとしてSC鳥取の活動を支援していくことにしています。会員の皆様にも今後共よろしくご支援のほどお願いいたします。（事務局）

▼写真提供／SC鳥取

SC鳥取の今後の対戦相手チームと日時・場所		
7月16日(日)13:00	栃木県グリーンスタジアム(栃木県)	栃木SC
10月21日(土)13:00	ひたちなか市総合運動公園陸上競技場(茨城県)	流通経済大
11月11日(土)15:00	国立スポーツ科学センター西が丘サッカー場(東京都)	佐川急便東京SC

Book拝見

鳥取に輝ける光
鳥取文芸

「鳥取文芸」という雑誌が〝千代川〟のことを特集しているのに魅かれて、104頁を一気に読了した。面白かった。

舟、筏流し、水車を中心に据え、暮らしと文化を記した広富博氏の論説。次の中林保氏の「千代川沿いの街道」では江戸時代の参勤交代と人々の生活が描かれ、いずれも面白く読めた。須崎俊雄氏「千代川の洪水」道上正規氏「治水と利用」は二編共人と洪水とのせめぎ合いの歴史が学術的に書かれる。流されても、流されても、人々の営みの凄さ。坂田友宏氏の「千代川流域の巨人伝説」は民族学的視点から。「因州和紙の歴史」岡村喬氏は記録資料に優れる。

「千代川の文芸」木村禮三郎氏は、山下清三から放哉、寒楼、山頭火、そして漂泊詩人伊良子清白らの事象等が書かれる好編。「八東川流域のたたら製鉄」吉田幹男氏は古文書が成果大。A5版全306頁定価1,000円（財）鳥取市社会教育事業団発行（遠藤隆司記）

勉強になった。各人光輝ける郷土史研究家だということが判る。

巻頭は、「千代川流域の歴史的景観」と題して明治頃の風物だった高瀬

県内情報

東京から鳥取県の魅力を発信

今年度も、東京事務所では、首都圏の多くの皆さんに鳥取県の魅力を知っていただくため、さまざまなイベント等を通じてPRして行きます。

特産物でPR

本県の特産品や伝統的技術などを素材に、「鳥取の食と技のおもしろ塾」を年4回開催します。

また、本県と交流を深めている千葉県松戸市で、「鳥取ファンのつどいin松戸」を開催します。

その他、すいか、二十世紀梨が旬となる頃には、PRキャラバン隊を編成し、マスコミ各社を訪問します。

●鳥取県・明治大学連携講座

時期	テーマ	内容	講師	定員
10月7日(土)	鳥取県の歴史	骨から考察する弥生人の生活	井上貴央 鳥取大学医学部教授	100
10月14日(土)		古墳	大塚初重 明治大学名誉教授	
10月28日(土)		上淀廃寺・彩色壁画に見る白鳳時代	中原　斉 県教委文化課室長	
11月25日(土)	鳥取県が育んだ人、鳥取県を舞台にした文学作品	志賀直哉に関連した内容	明治大学教授	100
12月2日(土)		尾崎翠に関連した内容	明治大学教授	
12月9日(土)		井上靖に関連した内容	明治大学教授	
11月上旬	鳥取県での現地研修	井上靖記念館、妻木晩田遺跡、上淀廃寺遺跡、船上山、三徳山、青谷上寺地遺跡等		40

●上記イベント等の詳細は、東京事務所観光物産担当（03-5212-9077）までお問い合わせください。

●鳥取の食と技のおもしろ塾

日時		テーマ	内容	場所	定員
6月29日(木)	10:00～12:00 13:30～15:30	地鶏	地鶏を使った文化講座、料理講座	明治屋クッキングスクール（京橋）	40 40

●鳥取の文化・教養塾

日時		テーマ	内容	講師	場所
7月15日(土)	15:00～16:30	三徳山	三徳山の魅力 ～現存最古の山岳仏教遺宝～	松浦正昭 富山大学芸術学部教授	杉並区内（定員）60
			三徳山の魅力 ～今年は開山1,300年祭～	三朝町関係者	

●鳥取ファンのつどいin松戸

時期	内容	場所
9月9日(土)	鳥取県の観光、文化、物産をPRし、市民との交流を深めるイベント	松戸市

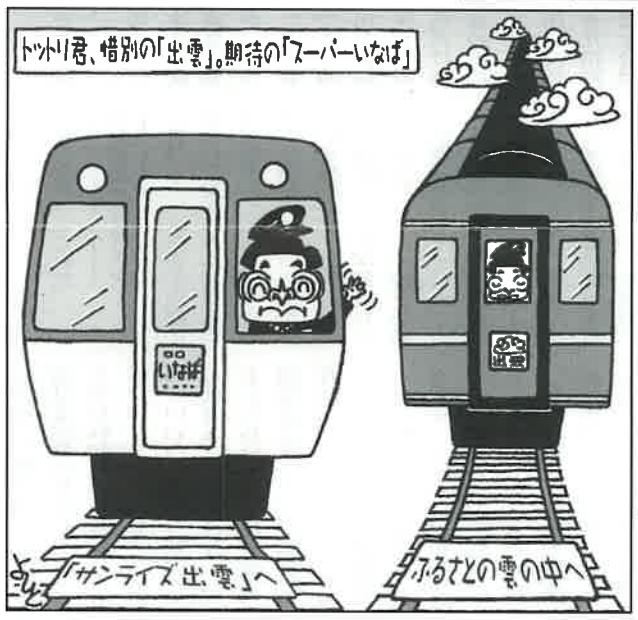
●鳥取県の物産と観光展

日時		内容	場所
9月12日(火)～17日(日)	10:00～19:30	鳥取県の特産品販売とイベント	日本橋三越本店

▲千葉県松戸市で開かれたすいかイベントの風景
もともと、鳥取名産二十世紀梨は、100年前にここ松戸から移植されたもので、そんな鳥取と松戸の繋がりです。

▲紅ずわいがにをテーマに、昨年12月に開催された「鳥取の食と技のおもしろ塾」の一場面。今年度の第1回目は「地鶏」をテーマに実施します。

▲昨年10月に開催された鳥取県・明治大学連携講座の一場面。演壇に立つ三徳山三仏寺の米田住職は、開山1,300年に関わる講義を行った。



▶漫画／かわにし　よしと

歴史・文化でPR

本県出身者「岸本辰雄」が創立者の一人である、明治大学のリバティーカレッジ（公開講座）に、本県の歴史や文化を題材とした「鳥取県関係学講座」を開設します。

今年で開山千三百年を迎える三徳山を題材とした「鳥取の文化・教養塾」を、三朝町と交流のある杉並区にて開催します。その他、千葉県松戸市、東京都武蔵野市、三鷹市などで開催される市民まつりに県内の市町村などと協力し、物産販売や観光PRを行う予定です。（事務局）

県人のお店

地酒と家庭料理が気軽に楽しめる
酒肴処　みらく亭

新宿から総武線に乗って一駅、大久保駅の南口から歩いて0・5分。酒肴処「みらく亭」は、ほんの駅前にある。

店内は、すっきりしたレイアウト。カウンターが10席という、こじんまりした店だ。「ほっ」とするぬくもりと、清潔でさわやかな〝気〟が感じられて心地よい。

「お客様に味を楽しんでいただきたいから『味楽』という言葉をやわらかくひらがなにして店名にしました」と、店主の石田浩紀さん（44歳）。

石田さんは、倉吉市出身。大学生活を東京で送ったあと、学生時代からアルバイトで通っていた北軽井沢のホテルにそのまま就職。そこで13年間修行を積んだ後独立。店は、今年でオープン8年目になる。

笑顔が素敵な奥様のゆかりさんは、東京・世田谷育ち。オープン当時からずっと支えてきた。二人は、大学の軽音楽サークルの仲間同士という長～いつきあい。なるほど、連携プレイが絶妙なのもうなづける。（写真はご夫婦）

メニューは、季節の刺身、煮魚、焼き魚を中心に和洋なんでもアリ。鳥取県からは、北栄町の長芋、そして板わかめ、いぎすなどを取り寄せている。長芋のバター焼き（480円）は、削り節がかかったオリジナルな味つけ。1品500円前後がメインという手頃な値段が魅力。地酒の「鷹勇」や「諏訪泉」も飲める。客の年齢層は、20代後半～50代後半のサラリーマンが多い。60代、70代の常連さんもいる。

ランチメニューも大好評。親子丼（500円）、カツ丼（550円）、ビーフカレー（500円）、カツカレー（550円）には行列ができる。

「化学調味料はいっさい使わないで、ダシは昆布と鰹節できちんととっています。自分たちが食べておいしく、そして体にいいものを、お客様に食べていただきたいからです」これが石田さんのモットーだ。

味はもちろん、店主夫婦の人柄から雰囲気から、どこまでも〝気持ちがよい〟のがこの店の持ち味。仕事の帰りにでも、ふらっと立ち寄りたい。●東京都新宿区百人町1-23-17●営業時間／11：30AM～14PM、17：30PM～23PM、土曜日＝18PM～22PM●定休日／日・祝日●TEL／03（5389）3173文／加藤雅子写真／遠藤隆司

趣味の会

ゴルフ会

第17回因伯オープンゴルフの優勝は上村正明氏、懇親会も和やかに

▲上は桜のコース　▼下は優勝の上村（中央）準優勝越谷（右）と生玉（左）の皆さん

東京鳥取県人会恒例の第17回因伯オープンゴルフ大会は、去る4月6日、桜花爛漫の埼玉県久邇カントリークラブで行われた。当日の参加者は18名、今年は交流部会の発足とも重なり、地元鳥取賀露港の海陽亭（村上和良社長）からの海産物が景品として提供され盛り上がった。プレイ後の懇親会でも和気藹々の中全員の発言があった。上位入賞は、優勝上村正明、準優勝越谷重友、3位松嶋一海。上村と永遠のライバル鳥飼公雄は、「口で負け腕でまけ」と嘆き、会場一番のりの岩田勝は「練習をやり過ぎました」と。実力派松浦克己は「花も見ず下ばかり見てました」と笑わせた。鳥飼と同グロス、同ハンデの竹歳一夫は満足顔。グロス良くてハンデに泣いたのは生田恵久。一番若い小野憲彦は「いつもの指定席にもどりましたが、籤の海産物が当たったから、マァイッカ」

次回、第18回は、神奈川県の大厚木カントリー倶楽部桜コースにて8組32名を予定。（文中敬称略、遠藤記、写真生田恵久）

同窓会・町人会

先ごろ5月21日に、進修会関東支部総会（倉吉農高）、5月28日には、第20回ふる里「鷺が峰会」懇親会（鳥取市旧鹿野町・気高町出身者）が開催されました。

6月には、以下の会が開催されますので、出身の方はぜひご参加ください。

●角盤会総会（由良育英高等学校同窓会関東支部）
6／16(金)18：30～スクワール麹町3階錦の間

●春季東因親睦会（旧岩美郡出身者）
6／22(木)18：00～東商スカイルームさがみ

●東京東雲会（鳥取東高）
7／1(土)16：30～法曹会館